



北里大学同窓会栃木県支部 新年会2022 開催中止のお知らせ

世話人 岸 善明、福田 容子
北里大学同窓会栃木県支部の皆様

栃木県では新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が解除されましたが、今後の流行の抑制のために大人数での飲食を伴う会食を自粛するように求められています。栃木県職員等も忘年会・新年会も含め宴席への参加が禁止されています。

支部での活動にも多くの県職員が参加しており、現状では例年通りの新年会の開催は困難です。残念ながら支部新年会 2022 の開催は中止します。

次年度以降、皆様と又親しく交流できることを楽しみにしています。

北里大学同窓会栃木県支部 第七回定期総会 6月18日開催

栃木県支部支部長 滝 龍雄
第七回定期総会を来年6月18日(土曜日)午後16時に開催します。今後の新型コロナウイルス感染症の動向により開催方法を、通常の対面開催、リモート開催、書面審議のいずれにするか運営委員会で検討し、次号の支部会ニュースに詳細を掲載する予定です。総会時には講演会と懇親会の開催を予定しています。ご期待ください。

支部総会は本会の最高決定機関です。皆様のご参加を宜しくお願いします。

Relay for Life Japan in Tochigi 2021 について

9月18・19日壬生町総合運動公園内にて開催予定であった標記のRFLJ2021は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場での開催は昨年に引き続き中止となったが、昨年とは異なり今年は18日だけのWeb開催となった。

Web開催の為に、パンフレットを作成されず、支部の広告はプログラムの中で配信された。広告掲載費やチーム参加費もWeb開催の為に、不要となった。

北里大学同窓会本部よりの報告

栃木県支部支部長 滝 龍雄

同窓会本部よりの連絡事項

- ① 6月26日Zoom会議により本部同窓会総会を開催。
- ② 学校法人北里研究所の2020年度収支決算では、約47.3億円の収入超過。900億円の資産を運用。
- ③ 支部総会の対面での開催が困難な場合、書面・Web開催でも5万円を支援。対面開催時は10万円支援。
- ④ 会員からの会費納入；新入学者からは対象の95%程度、卒業後10年以上の会員から10%程度の納入。

パラリンピック金メダリスト 杉浦佳子さん(薬学部卒)講演会

北里大学薬友会 会長 成松 由紹

東京2020パラリンピック自転車競技の金メダリスト(2冠)の本校薬学部1995年卒業(27PT)の杉浦 佳子氏講演会を下記の通り開催致します。

日時：2021年12月24日(金)17時から50分程度

会場：北里大学白金キャンパス 大村記念ホール

主催：北里大学薬学部・北里大学薬友会

演題：「北里大学在校生への要望、期待すること(仮称)」(講演会後の質疑応答はありません。)

参加費：無料

開催形態：会場参加又はオンライン配信(後日、オンデマンド配信のご案内を致します。)

参加申込み：事前申込みが必要です。薬学部、研究所/学府関係者は会場参加又はオンライン配信。その他の北里関係者(卒業生)はオンライン配信のみ。

オンライン配信申込みは下記のURL又はQRコードから12月20日までに行ってください。

URL：<https://pro.form-mailer.jp/fms/c98785ba241857>

QRコード：



詳細は薬友会HPでご確認下さい。

北里大学のCOVID-19感染症 流行下での学生の講義・実習

一昨秋以降の新型コロナウイルス感染症の流行は、北里大学の学生教育にも多大の影響を及ぼしております。本支部の会員の中には子弟を北里大学に通っている子弟の教育状況を心配されていることと思っております。

相模原キャンパス、白金キャンパス、十和田キャンパスでの新型コロナウイルス感染症の流行下での学生教育についてそれぞれのキャンパスの対応について教えてくださいました。

支部長 滝 龍雄

相模原キャンパスにおけるCOVID-19 感染症下での学生の講義・実習

北里大学学事企画部 池本 尚
北里大学同窓会栃木県支部の皆様

いつもお世話になっております。この度は、栃木県支部ニュースの記事に投稿できる機会をいただき誠にありがとうございます。私は薬学部製薬学科を1987年3月に卒業し、北里大学の事務職員となりました。(なぜの説明は長くなるので割愛します)

さて、北里大学におけるCOVID-19感染症の影響下での学生の講義・実習について、相模原キャンパスの状況をご報告申し上げます。

COVID-19感染症の拡大に伴い、2020年4月7日に緊急事態宣言が発令され、相模原キャンパスは学生の入構を2020年5月6日まで禁止(最終には5月24日)としました。新入生を迎える入学式も中止となり、各学部ではオンライン講義の準備に追われ、手探りながらも、4月中旬には前期授業がオンライン講義で行われました。初めは録画講義を流し、課題を与える形式の講義が多くあり、教育効果が疑われ、学生の不満もありましたが、すぐにZoom、グループ、ムードル等を利用した双方向のオンライン講義が開始されました。

2020年5月25日に一時的でしたが、緊急事態宣言が解除され、オンライン授業と分散登校を基本とした対面授業を併用し、教育が本格的に再開されました。対面授業は、マスク・換気・校舎入口に自動体温計測機・消毒アルコールの設置等の十分な感染対策を講じることを条件に、講義室定員を50%(一部授業は70%)に制限して開始されました。スクールバスの乗車制限、学生食堂も椅子を間引きしてアクリル板を設置しました。

2021年6月以降は、緊急事態宣言や蔓延防止法が発令されても、また一時的に発令が解除されても、このような感染対策を講じることにより、相模原キャンパスにおけるクラスターは発生しておらず、これまでの学生罹患率も大学全体で、0.8%(罹患率80人/学生数9,284人・2021年9月現在)となっており、20歳代の罹患率(相模原市4.8%)に比較してもかなり低い数値となっております。なお、緊急事態宣言が発令中は、クラブ活動は

禁止です。

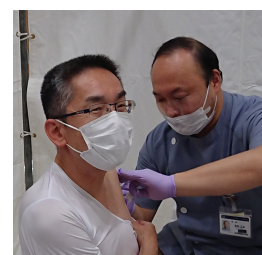
また、COVID-19感染症への罹患状況を正確かつ迅速に把握することで、学生本人の健康管理を行うとともに、無症状の実習学生が臨床実習先で感染を拡大することを予防することで、臨床実習受入先の医療機関の患者・医療従事者らの安全にも寄与するために、2021年2月に北里大学PCRセンター(写真)を設置しました。



北里大学病院での臨床実習を行う学生に、同センターで週2回のPCR検査を義務付けるとともに、他医療施設・教職課程の実習を行う学生に無料でPCR検査を行っております。相模原キャンパス以外の白金キャンパス・北本キャンパスの学生の検体(唾液)も毎日定期便(大学保有の車)で同センターに運び検査しております。現在は、検査対象を拡大し、クラブ活動の合宿、帰省等で検査を希望する学生・教職員や、高大連携協定を締結している近隣の高等学校の修学旅行前の検査等も請け負っています。

COVID-19ワクチンの接種状況については、2021年6月に北里大学病院で臨床実習を行う学生にワクチンを接種、7月と8月には学生・教職員の希望者全員に職域接種として、ワクチンを接種しました。その結果、相模原キャンパス ワクチンを受けていますでは、89.7%(2021年9月現在)の学生・教職員が接種に至っております。

しかしながら、抗体価が下がりブレイクスルーの報告も多く、引き続き感染対策を講じて、講義室定員の原則50%[一部授業は80%(70%から変更)]を維持して、教育を展開してまいります。



2021年度薬学部の近況報告 ～ニューノーマル時代を迎えて～

北里大学薬学部 薬学部長 岡田信彦

北里大学同窓会栃木県支部の皆様、平素から大変お世話になっております。10月に入りCOVID-19新規感染者も減少傾向にあり、まだまだ予断を許さない状況ではありますが、平常の生活が戻りつつあるところです。今回、薬学部の近況報告をさせて頂くこととなりました。宜しく願いいたします。



2021年度は、薬学部では302名(薬学科265名、生命創薬科学科37名)の新入生、また、2人の新任教授(微生物薬品製造学教室、薬剤学教室)を迎えスタートいたしました。

2021年度における学生の教育・研究に対する大きな課題は、ニューノーマルとよばれる社会情勢のもと、どのように学生に対して効果的な教育が実施できるか、ということでした。医療人として信頼される人間関係を構築する能力の醸成は、日常的なコミュニケーションから生まれるものであり、医療人養成を目的する本学としては、可能な限り対面授業にこだわることにしました。また、実習時間を最大限確保することは、問題解決能力や論理的思考能力を養うことに必要であるとの考えから、講義室や実習室の収容率50%とし、実習に参加する日を登校日(午前中は講義、午後は実習)とする時間割を実施しました。登校日にあたらない学生は、遠隔授業により参加することになります。

東京都では、2021年4月25日から再々度、緊急事態宣言が発出されましたが、教育機関における活動制限はなかったことから、宣言下においても当初の予定通り授業を実施しています。また、実務実習(薬学科5年)は、緊急事態宣言下のI期及びII期においても実習施設において実施されています。病院実習生は、5月からワクチン接種も行いました。7月からは、白金キャンパスにおける職域接種を開始し、9月の後期開講までに学生及び教職員が2回のワクチン接種を終了しています。各研究室における大学院研究及び学部学生の卒業研究は、通常通り実施しています。大学院生の学会活動も、多くの学術大会や研究会の開催が、オンライン形式となっていることから、Web会議方式での参加が可能となっています。

昨年は、オンライン講義のみであった1年生の白金キャンパスでの授業(毎週金曜日)も講義室の収容率50%とし、クラス毎に対面授業を実施しています。また、10月になって、東京都の緊急事態宣言が解除され、課外活動も少しずつ再開しています。講義室の使用も収容人数の80%までに変更され、薬学総合演習(薬学科6年)は全学生が大講義室に対面授業となりました。また、薬学科6年は、薬剤師国家試験の全員合格を目指して、例年以上の充実した学習サポートを実施しているところです。

残念ながら、2021年度の北里大学入学式(4月)及び薬学部白金祭(10月)など大きな行事は中止となりましたが、2022年度は、講義・実習への参加や課外活動における制限をなくし、学生全員の対面授業が可能となるよう準備を進めているところです。これまで同様、感染予防対策への取組を続けることで、より安全安心なキャンパスライフの実現が可能になるものと思います。

最後になりましたが、北里大学同窓会栃木県支部の皆様には、これからも薬学部の教育・研究をご理解いただき、さらなるご指導・ご鞭撻いただきますよう、どうぞ宜しくお願いいたします。

獣医学部の COVID-19 対策

北里大学獣医学部 獣医学部長 上野俊治

北里大学同窓会栃木県支部の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年より獣医学部長を仰せつかっております上野俊治です。

私は宇都宮市出身で、滝支部長にお願いして栃木県支部特別会員にして頂いておりますが、滝先生から獣医学部の COVID-19 対策について紹介依頼を受けましたので、学部のこれまでの対応についてご紹介させていただきます。



2019年11月は学部教員5名が、北里大学獣医学部と吉林大学との交流三十周年記念式典のため長春市を訪問し、その後西南大学(重慶市)、华中農業大学(武漢市)との協定締結交渉を行って来ました。帰国2週間後に、武漢で奇妙な肺炎患者が発生したニュースに触れましたが、この疾病が COVID-19 として全世界に広がりこのような事態になるとは、当時は思いもみませんでした。

2020年3月になるとわが国の大都市圏で感染報告が相次ぎ、獣医学部がまず直面した問題は、相模原から十和田市に引っ越してくる360名の新2年生をどうするかでした。この時期、青森県内にはほとんど感染者がいまませんでしたので、青森県庁から非公式ながら新2年生の来県を中止するよう圧力が掛かり、また十和田市民からも同様の匿名メールや電話が相次ぎました。学部としては、学生達に感染予防対策を行った上で来県するよう指導し、全学生の移動日程、移動手段を把握して、3月末から2週間の自宅待機・健康観察措置を講じました。幸いにも感染者がいない状態を維持できましたので前期授業を開始することとし、その後2週間にわたって講義を1日に2回開講して、各学年の半数ずつを受講させるようにしました。

連休になると学生達が首都圏等に行ってしまうことが予想されましたので、5月の連休中も講義を実施することとし、講義は座席指定の対面式、実習も人数を制限して対面式で行いました。例年であれば定期試験終了後は夏休みとなるところですが、夏休み中の県外での感染を予防するために、夏休みを返上してそのまま後期の講義・実習を行い、年内に定期試験を終了させて12月末からは冬休みとしました。この間、十和田で過ごした学生達は、十和田地域の感染者の少なさや医療体制の脆弱さを目の当たりにし、また田舎特有の一般市民が感染者を特定してネットで誹謗・中傷することも経験して、より一層感染防止を心がけていたと思います。

2021年4月になっても状況は同じでしたが、新2年生全員にPCR検査を実施後に来県するよう指導し、今年も5月の連休を返上、7月末までに前期試験を終了しました。試験終了翌日から3日間かけて1,200名の学

生・教職員の1回目のワクチン職域接種を行いました。夏休みを約一ヶ月とって、8月下旬に2回目の職域接種を行い、2週間の検疫期間に学生達が感染していないことを確認して、現在、対面式で後期の講義・実習を実施しております。

この間、青森県内の他大学では感染者クラスターが発生しましたが、北里大学獣医学部ではクラスターは発生せず、順調に後期日程を進めております。今週末には2年ぶりに紅葉祭(学園祭)が条件付き(外部から入校禁止、飲食禁止)で開催できるところまで来ました。今年も年内に後期定期試験を終了させ、1月からは冬休みに入る予定です。COVID-19流行2年目も対面式の講義・実習を維持し、大過なく校内行事をこなせることは、学生・教職員の皆様の御協力のおかげと感謝しております。

来年こそ通常の生活に戻り、栃木県支部の皆様にも北東北に来て頂ける状況になっていることを祈りながら、獣医学部のCOVID-19対策の説明と致します。

北里卒のオリンピック金メダリスト誕生： 薬学部卒の杉浦佳子さん、パラリンピック 自転車競技で二個の金メダル



去る8~9月に開催された東京パラリンピック、自転車の女子個人ロードレースの運動機能障害(C1-3)のクラスで薬学部製薬学科を1995年に卒業した50歳の杉浦佳さんが2個の金メダルを獲得しました。50歳での金メダルの獲得は日本選手のパラリンピックでの金メダル獲得の最年長記録でもあります。

杉浦さんは、女子個人ロードタイムトライアルと女子個人ロードレースでの金メダル獲得です。

杉浦さんは静岡県掛川市出身です。昔からスポーツ好きだったそうですが、特別に競技に打ち込んだ経験はなかったそうです。実家が薬局を運営していたことから北里大薬学部製薬学科に進学し、卒業後、薬剤師として働きながら30代から趣味でトライアスロンを始め、自転車レースにも出場し始めたそうです。45歳の時に2016年4月に開催されたロードレースで転倒し、頭部や右肩を骨折する大けがをしました。それで記憶力などが低下する「高次脳機能障害」と右半身のまひが残りましたが、翌年の2017年からパラ選手として競技を始めました。

それから2年続けてロードの世界選手権で優勝し、2018年には国際競技団体からその年に最も活躍した選手に選

ばれたそうです。

杉浦さんは「障害や年齢に関係なく成長できることを証明したい」と思い、見事に初出場のパラリンピックで2つの金メダルを獲得し、まさに自転車競技のロードの女王に輝きました。競技歴はまだ4年で、みずから“伸びしろだらけ”と称する50歳の杉浦さんは今後も記録を伸ばし続ける事が期待されます。

頑張れ、杉浦佳子さん!!

最近では、お正月恒例の箱根駅伝の予選会に出ることも難しくなった北里大学は余り運動競技には縁のない大学ですが、杉浦さんの様な方が出てきてくれると卒業生にとっては大きな励みとなります。

心から「杉浦さんおめでとう。」言わせてもらおうと共に、「杉浦さん有り難う。」とも言いたいですね。



12月24日には白金で、「北里大学在校生への要望、期待すること(仮称)」と題した講演会が開催されます。北里大学栃木県支部の皆様は直接白金での講演会への参加ではなくOnline配信での聴講になりますが、是非本学卒業の金メダリストのご講演を楽しんで頂ければと思います。

編集後記：

現在使用されているワクチンは筋肉内注射が必要で、血液中のIgG抗体の作成が目的です。COVID-19は毎年の様に冬に流行を繰り返すインフルエンザウイルス(インフル)と同様に呼吸器感染します。インフルでは呼吸器粘膜での免疫応答を利用した鼻噴霧式のワクチンが使用されており、鼻にスプレーで霧状の弱毒生ウイルスを投与し、鼻や喉の粘膜にIgA抗体を作り、それによってウイルスの侵入をブロックし、予防効果も高いことが報告されています。鼻スプレーは注射の痛い思いをしなくて済みます。鼻噴霧式のCOVID-19ワクチンを早く実用化してほしいですね。

新型コロナウイルス感染症の拡大抑制のための不便な自粛生活を求められる中で、薬学部製薬学科卒業の杉浦佳さんの2020東京パラリンピック自転車競技での二個の金メダル獲得は、本当に明るいニュースとなりました。自転車レース時の転倒による高次脳機能障害で薬剤師の仕事は出来なくなったそうですが、北里精神の一つである「不撓不屈」で今回の快挙に繋がったそうです。僕達も見習いたいですね。(文責：滝)